

## 8.3 アリーナを核とした新たなビジネスを探る

### 「神戸アリーナ（仮称）」の概要&ビジネスマッチング説明会

新事業・イノベーション創出委員会は神戸スポーツ産業懇話会と共催で、神戸のアリーナの概要を知るとともに、地元企業がビジネス提案できる機会創出を目的とした説明会を開催した。

同アリーナは、2025年4月開業予定の最先端の大規模多目的施設。説明会では、その運営を担う(株)OneBright KOBE代表取締役社長の渋谷順氏と、2025年に同アリーナを本拠地とするプロバスケットボールチーム「神戸ストークス」を運営する(株)ストークス代表取締役の北村正揮氏が

登壇し、会場とオンライン合わせて200名超が参加した。渋谷氏は同アリーナの概要やデジタル活用の構想などを説明。「民設民営の強みを生かし、神戸の人々と共に盛り上げたい。興行のない日も含め、日常的に人が集う地域のランドマークを目指す」と強調し、地元企業からの積極的な提案を呼びかけた。

北村氏は、神戸ストークスの軌跡や協業メリットを紹介し「スポーツチームが持つ影響力・媒体力を活用することで、企業価値の向上や認知獲得につながる」と語った。



産業部産業・国際チーム



## 8.1 輸出業務に携わる担当者がRCEP協定の活用法を学ぶ

### RCEP利活用セミナー2023



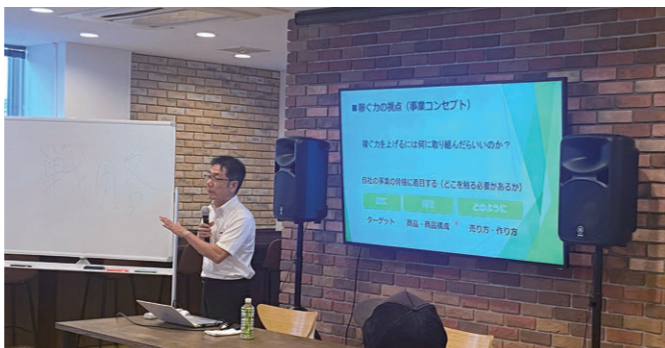
国際ビジネス委員会は、TSストラテジー(株)代表取締役の藤森陽子氏を講師に迎え、RCEP協定の活用法や運用上の注意点を学ぶセミナーを開催した。

同協定は中国・韓国をはじめ15カ国が参加し、日本の貿易額の約5割を占める地域をカバーすることから、利用企業が急増している。発効から1年半が経過する中、初めて活用に取り組む企業も多く、改めて正しい活用法を伝える機会とした。藤森氏は「RCEP協定を含むEPA活用は、輸出者が輸入者のために動かなければならない。自社の体制を踏まえ、対応を検討してほしい」と語った。

産業部産業・国際チーム

## 8.2 事業計画書作成のポイントについて解説

### 小規模事業者持続化補助金事業計画書作成セミナー



小規模事業者持続化補助金の概要と事業計画書作成のポイントを学ぶため、中小企業診断士の藤尾政明氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

藤尾氏は、小規模事業者持続化補助金の概要を説明した上で、事業計画書を作成する必要性、事業計画書の作成手順などについて解説した。また、実現性の高い事業計画書とするためには「自社の現状、同業他社、商圏とする市場の動向などを分析することで、売上を伸ばす施策を考えることが重要」と強調した。

中央支部

## 8.24 支援プログラム・輸出方法を学ぶ

### これからの輸出応援セミナー

国際ビジネス委員会は、これから輸出に取り組む事業者を対象に、各支援機関の支援施策や具体的な輸出方法について情報提供するセミナーを開催。近畿経済産業局、(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)、(独)中小企業基盤整備機構の3つの支援機関が、サポートメニューや、中小企業による輸出事例を解説した。

近畿経済産業局通商部国際課課長補佐の山本麻希氏は「新規輸出1万者支援プログラム」を紹介し、「昨今の円安は輸出に挑戦するチャンス。地元支援機関が連携して個社

サポートするので、輸出に取り組みたい企業はぜひ当プログラムを活用してほしい」と語った。

ジェトロ海外展開支援部主幹の小林寛氏は、海外主要国の最新ビジネス動向と情報収集の手段を解説。「海外展開は第二創業に近い。ジェトロでは情報収集の支援もしているので、今一度、自社を客観的に分析し、強みを発揮できる海外市場をよく調査した上で取り組んでほしい」と強調した。

参加者からは「行政の海外展開支援施策が一度に得られた」との声が聞かれた。



産業部産業・国際チーム



## 8.21 小窪梨世さん(親和女子高)・田畑佑宜さん(小部中)を表彰

### 珠算検定 1級満点合格表彰式



第228回珠算能力検定において、小窪梨世さん(親和女子高等学校)・田畑佑宜さん(神戸市立小部中学校)が1級を満点合格し、その成績を称える表彰式が行われた。

今回、1級の試験に全国で6,960人が挑み、1,970人が合格。満点合格者はわずか39人のみであった。表彰式では、日本商工会議所ならびに当商工会議所からの表彰状を授与。二人は、満点合格に向けて、時間感覚と集中力を磨いてきた。小窪さんは「将来は薬学部に進学して研究者を目指したい」と語り、田畑さんは「次は競技大会での優勝を狙う」と決意を述べた。

会員事業部人材開発チーム

## 8.23 神戸市内企業との共創を支援

### オープンイノベーションセミナー&市内企業とのマッチング説明会



神戸商工会議所と神戸市は、オープンイノベーションの手法を学ぶセミナーとあわせて、事業開発や課題解決へのチャレンジを目指す神戸市内企業5社と、共にチャレンジしたい企業をマッチングする説明会を開催した。

はじめに、共創チャレンジを支援する(株)eiiconの野田氏がオープンイノベーションの重要性について解説。その後、市内企業5社(ラッキーベル(株)、センサーズ・アンド・ワークス(株)、(株)好日山荘、伊福精密(株)、(株)小池農園こめハウス)が自社の共創テーマを発表し、地元企業からの提案を呼び掛けた。

産業部産業・国際チーム



8.29

## 今後のインバウンド戦略を考える

### 観光トレンドセミナー2023

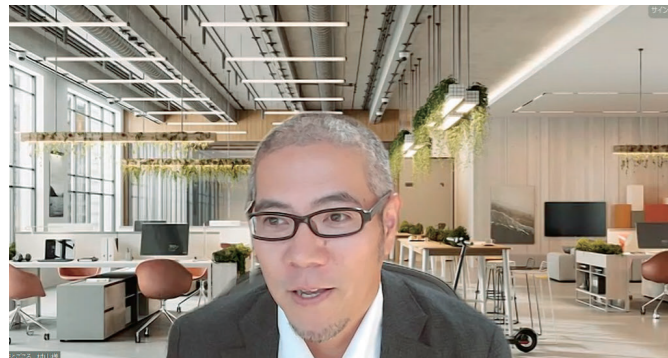
賑わい創出委員会と集客交通観光部会は、インバウンド戦略をテーマにセミナーを開催した。

最初に、(一財)神戸観光局マーケティングディレクターの服部卓郎氏より、神戸観光局が取り組むインバウンド戦略を解説。2025年に外国人延べ宿泊者数100万人を目指すとし、「欧米豪、東アジア、東南アジアを主要ターゲットに、今年度は食とスポーツをテーマにプロモーションを展開し、神戸への誘客を図る」と強調した。

続いて、(株)やまところ代表取締役・インバウンド戦

略アドバイザーの村山慶輔氏が講演。最近の傾向として、欧米や中東の日本訪問初心者が増加していると紹介し、「ニーズの多様化に対応できるかが訪日外国人に選ばれるカギとなる」と説明した。

また「持続可能な観光」の視点が不可欠と指摘し、「インバウンドはブームではなくトレンド。リスクヘッジも必要だが、インバウンドには伸びしろしかないと捉え、ハングリー精神をもって積極的に取り組んでほしい」と締めくくった。



地域政策部

8.23

## チームの成果を最大化するリーダーへ

### コーチ型リーダー養成講座



職場を活性化し、部下と自身の強みを引き出すコーチングスキルを学ぶため、モット！コミュニケーションラボ代表の宮本敦子氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

宮本氏は相手の話を引き出す傾聴力の重要性を説き、「安心して話ができる環境づくりが信頼関係の第一歩。部下に話させて気づきを与え、成長を促してほしい」と強調した。

参加者からは、「コミュニケーションを見直す機会となり、部下の成長速度を早めるための効果的な指導方法を習得できた」との声が聞かれた。

会員事業部人材開発チーム

8.28

## 「神戸医療産業都市と医療関連スタートアップ」をテーマに視察と意見交換

### 新事業・イノベーション創出委員会



新事業・イノベーション創出委員会は、神戸医療産業都市と医療関連スタートアップをテーマに委員会を開催した。

企業や研究機関にシェアラボを提供する「クリエイティブラボ神戸」を訪れ、(公財)神戸医療産業都市推進機構常務理事の小寺孝治氏と神戸市の取り組みについて意見交換を行った。

続いて、同施設に入居するスタートアップ、(株)バックス・バイオイノベーション取締役の近藤昭彦氏より事業説明を聞き、施設を見学した。その後、(株)メディカロイドに移動し、国産手術支援ロボット「hinotori™」の操作を体験した。

産業部産業・国際チーム